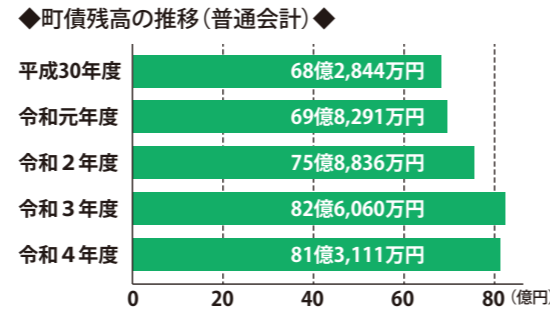


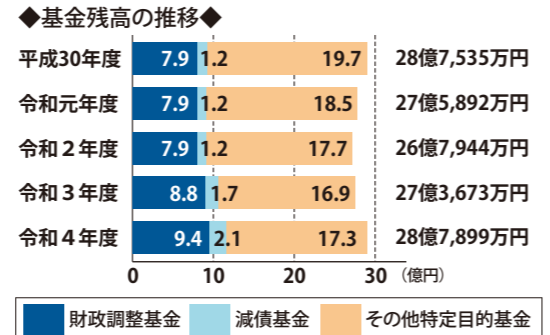
07 町債残高の状況

町債は大きな事業をするために借入するお金のことで、多世代で利用する社会資本を公平に負担するものになっています。町債残高は令和4年度末で81億3,111万円となっており、令和3年度末に比べて1億2,949万円の減少となっています。令和4年度は、防災行政無線デジタル化事業で2億6,320万円、道路等新設・改良事業で8,480万円、臨時財政対策債で4,877万円、災害復旧事業で4,470万円など、合計6億4,157万円を借入しました。



08 基金残高(積立基金)の状況

基金は法律や条例に基づいて設置するもので、町の貯金にあたります。令和4年度は地域振興対策基金、平成28年熊本地震復興基金等の取り崩しをしましたが、地方交付税や各種交付金等が当初の見込みよりも増加したことと税収が増加したことにより、財政調整基金、減債基金、ふるさとづくり基金などに積み立てることができたため、基金残高は前年度より1億4,226万円増加しました。



※財政調整基金とは、年度によって生じる財源の不均衡を調整するための基金です。
※減債基金とは、将来の借金の返済に備え、積み立てる基金です。

09 地方消費税交付金(社会保障財源化分)の社会保障経費充当内訳書

平成26年4月1日より消費税率(国・地方)が5%から8%、令和元年10月1日より8%から10%へ引き上げられたことに伴い、地方消費税交付金の増収分については、その用途を明確化し、社会保障施策に要する経費に充てるものとされています。

令和4年度における用途状況は以下のとおりです。

事業名	決算額	財源内訳				
		特定財源			一般財源	
		国・県支出金	地方債	その他	引上げ分の地方消費税	その他
社会福祉事業	8億2,282万円	5億122万円	0	281万円	4,299万円	2億7,580万円
高齢者福祉事業	5億4,838万円	6,077万円	0	2,128万円	6,289万円	4億344万円
児童福祉事業	4億9,305万円	3億5,288万円	500万円	1,160万円	1,667万円	1億690万円
合計	18億6,425万円	9億1,487万円	500万円	3,569万円	1億2,255万円	7億8,614万円

10 入湯税の用途状況について

入湯税は、環境衛生施設、鉱泉源の保護管理施設及び消防施設その他消防活動に必要な施設の整備並びに観光の振興(観光施設の整備を含む。)に要する費用に充てることを目的とした地方税です。

令和4年度における用途状況は以下のとおりです。

区分	決算額	財源内訳				
		特定財源			一般財源	
		国・県支出金	地方債	その他	入湯税	その他
環境衛生施設の整備	1億3,859万円	0	0	0	452万円	1億3,407万円
消防施設等の整備	1,475万円	549万円	870万円	0	10万円	46万円
観光の振興及び観光施設の整備	1,419万円	243万円	0	51万円	37万円	1,088万円
合計	1億6,753万円	792万円	870万円	51万円	499万円	1億4,541万円

05 健全化判断比率・資金不足比率の公表

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、地方公共団体は毎年度、実質的な赤字や将来負担などにかかる指標(健全化判断比率)と、公営企業ごとの資金不足比率を議会に報告し、公表することとされています。

○健全化判断比率

財政の健全度を表すものです。南関町においては、全ての会計が黒字となり、実質公債費比率は対前年度で増減なし、将来負担比率は対前年度1.4ポイント増となっています。

健全化判断比率	実質赤字比率※1	連結実質赤字比率※2	実質公債費比率※3	将来負担比率※4
令和4年度	—	—	8.4%	29.4%
(前年度)	(—)	(—)	(8.4%)	(28.0%)
早期健全化基準	15.0%	20.0%	25.0%	350.0%
財政再生基準	20.0%	30.0%	35.0%	—



【用語解説】

- ※1 実質赤字比率……一般会計などの実質収支の合計が赤字となった場合、標準財政規模(地方公共団体の標準的な一般財源の規模で普通交付税や町税などが主なもの)に対する割合。
- ※2 連結実質赤字比率……全会計の赤字額から黒字額を引いた額を標準財政規模で割った比率。
- ※3 実質公債費比率……一般会計の地方債の償還や公営企業への繰出金などから算出した指標です。借金の返済状況がどれだけ会計を圧迫しているかを3カ年平均で表します。
- ※4 将来負担比率……一般会計などが将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する割合。

○資金不足比率

公営企業ごとの資金の不足額が、事業規模に対してどの程度あるかを示したものです。南関町においては、全ての公営企業で資金不足はありません。

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
下水道事業	—	
簡易水道事業特別会計	—	20.0%
浄化槽整備推進事業特別会計	—	

06 財政力指数・経常収支比率の公表

財政力指数は、地方交付税法の規定により算定される基準財政収入額を基準財政需要額で除して数値の3カ年(令和2～令和4年度)の平均値により算出されるもので、「1」に近いほど財政に余裕があると見なされます。

経常収支比率は、財政構造の弾力性を示すもので、歳出に占める経常経費(人件費など欠かせない経費)の割合を示します。数値が低いほど普通建設事業などの臨時的経費に充当できる一般財源があり、財政構造が弾力性に富んでいることになります。

	財政力指数	経常収支比率
令和4年度	0.39	91.4
令和3年度	0.40	88.5